



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日 12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2011年3月第2週号

第2306回



平成23年3月11日(金) 点鐘12:30(晴れ)

- ◆ロータリーソング 『我等の生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- 本日のゲストスピーカー/エッセイスト 酒井 登志生様
- 酒井塾メンバー・宮澤 孝子様
- 成田コスモポリタンRC/ 諸岡 孝昭様
- 米山奨学生/ 閻 宏偉さん

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

当クラブは、3年後に創立50周年を迎えます。それに伴い、東仁川RCの皆様との親交をますます密にしたいと考えており、東仁川RC訪問を予定したいと思っておりますので宜しくお願いします。

■ ご挨拶

成田コスモポリタンRC・諸岡孝昭様より

今日は伝統ある千葉南クラブを訪問出来ました事を大変光栄に思っております。榊原会長は、成田高校ご出身と伺いましたし、昔、青年会議所でお世話になった野城さんと同席させて頂き、大変有難いと思っております。私の弟が成田RCの会長をやっておりまして、今年、50周年ということですので皆様宜しくお祈り致します。

米山奨学生 閻 宏偉さん



皆様にお世話になって1年となりました。例会への参加は今日で最後となります。皆様の温かいご支援のお陰で経済の心配をすることなく研究や論文に専念することが出来、3月25日に無事卒業することが出来そうです。ロータリアンの皆様からいろいろな知識を得ましたが、一番感動したのは、奉仕の精神で

す。先週のセミナーでガバナーから、「自分の幸せだけを考えるのではなく、周りの人も幸せになれるよう考えること。」と言われた言葉が頭に残っています。皆様には心から感謝しております。特に斎藤カウンセラーと奥様にはいろいろとお世話になり、深く感謝します。今日は、皆さんに食福を込めて大福もちを持ってきました。感謝の気持ちを込めて皆様のご健康をお祈りします。有難うございました。

■ 仮委嘱状伝達

2011-2012年度地区ロータリー財団委員会 寄付金委員会
委員 吉田 裕成会員

■ 幹事報告

小林 透幹事

- 3月18日(金)の例会は、定款により休会です。
- 4月8日(金)の例会は、花見移動例会です。
(点鐘:午後6時 会場:殿山ガーデン)

■ ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

酒井様、本日の卓話、宜しくお祈り申し上げます。

☆小野 成子会員

3月31日、千葉県民マーじゃん大会が千葉寺町のハーモニープラザで開催されます。NPO法人いきいき健康マーじゃん塾主催です。市民大会は、いっぱいになりましたが、県民大会は、まだ参加者が足りません。ご協力の程宜しくお願いします。

☆瀬谷 研一会員

26歳の娘が全く結婚する気配もなく、当分、孫に会えることもなからうと妻にせがまれて「トイブードル」を飼い始めました。こんなにペットが家族を癒すものとは思いませんでした。でも、少し不安はあります。私達夫婦は、いずれもサル年…。うまくやっていけるでしょうか…。 “犬猿の仲”になりませんように…。

☆吉田 裕成会員

去る2月28日、無事傘寿を迎えることが出来ました。これまで大病もせず長寿を重ねることが出来ましたのも皆様のお陰と感謝申し上げます。

本日、傘寿を記念しまして「米山功労者」と「ポール・ハリスフェロー」の寄付を行います。

今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

本日のニコニコボックス	14,000 円	累計	539,000 円
金の箱	180 円	累計	23,828 円

出席報告 (会員数39名)

出席者数32	欠席者数7	ビジター 4	修正出席率 86.84%
--------	-------	--------	--------------

千葉市内例会変更のご案内 [メニュー](#) [トップ](#) [ご利用下さい](#)

千葉RC	月	4/4	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	3/29・4/12	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	4/5	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	4/20	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	3/30	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	3/31・4/14	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	3/31・4/14	京成ホテルミラマーレ

★ 本日の卓話 ★

演 題…『人心 I・Tが仲介する時代』
卓話者… エッセイスト 酒井 登志生様



私の話は、テーマがあってないようなものですが、本日はよろしくをお願いします。

これはつい最近の経験で、千葉日報にも書いたものです。私の読者からは、褒めてもらうよりお叱りを受けることが多いのですけれど、やはりこれも文化部長のところへ

お叱りが入ったと連絡を受けました。

私は、千葉大病院と海浜病院の両方に行っているのですが、海浜病院に行く時に、予約はしてあったのですが予約票を出すためには診察券が必要でした。また、月替わりの時は保険証も必要でした。その両方が大切なものだったので、机の上にきちんと置いておいたのですが、「これを忘れちゃいけないぞ」と思うと忘れてしまうものなのですよね。

私は、何気ない時には忘れないのに、これは忘れちゃいけないという時に限って不思議と忘れてしまうという変な性格を持っています。それで先日も、海浜病院に向かうバスに乗ってから、もう病院に着こうという時になって診察券と保険証を忘れたことに気がきました。この二つがないと診察して貰えないので大変だということで、バスの中で携帯はいけないと分かっていたのですが、バスの中には4～5人位しか乗っていませんでしたし、皆さん居眠りをしている様子だったので、そうっと家に電話して診察券と保険証を届けてくれるよう連絡しました。自分でも言いながらおかしく思ったのですが、ご本尊が160円のバスで行って、診察券と保険証は2千円以上かけてタクシーで来るという変なことになりました。家の者は電話には出たことは出たのですが、うまく話が伝わりませんでした。そこで他の乗客を起こしてはいけませんが、ほんのちょっと声が大きくなったのですね。そうしたら途端にその何倍もの大きな声で運転手さんにマイクで「マナー違反ですよ。」と放送されてしまいました。私はすぐに謝ったの

ですが、実は私が携帯を使っている時はみなさん目をつむったままでしたが、運転手さんがマイクで大きな声で言ったものですからみなさん一斉に目を開いちゃいました。



今はIT時代と言われますが、いろんなところで携帯を使えなくなっていますよね。それは、法律とかというのではなくてマナーの問題ですから当然私も謝りましたが、あとで考えてみて、「ああ悪いことしたなあ。でもよっぽどマイクを通した運転手さんの声の方が大きかったなあ。」と思ひまして、そのことを新聞に書きました。私としては恐縮して書いたつもりだったのですが、文化部長から電話がかかってくる、幾つか読者の方から「自分がマナーを破っておいて、運転手さんの声でお客様が起きたなんて言うのは卑怯だ。」などというお叱りを受けたとのことです。文化部長さんには「読者の方に謝っておいて下さいね。」とお願いしましたが、これがIT時代なのかなと思ひました。

携帯電話は、バスや電車ではマナーとして使ってはいけないことになりました。また音楽会や講演会の会場でも携帯電話の電源を切っておいて下さいと言われてます。私がお話する時は、もしかしてご家庭から何か重大な連絡があるかも知れませんが、どうぞ電源は入れておいて結構ですよと言っておりますが、一般的には絶対に切らなければいけません。

こうしてみると、携帯電話は便利ですが、メールが出来る人は良いですが、そうでない人にとってはある意味で便利な機械が不便になるかなという感じがしました。

また、それに続くことがありまして、私には気管支にポリープが三つできていて、その中には危険なものもあるとのことで、本当は手術に3回かかるとのことでした。でも一方、実は心房細動というのが随分進んでいて、もうペースメーカーを入れなければ心臓が助からない状態にまでなっているそうです。ペースメーカーというのは、雰囲気としてあんまり好きじゃないので何とか延ばせないでしょうかと他のお医者さんに相談したところ、まだ延ばせると言われたので、それを他の先生に聞いたからとは言わずに自分で考えたからと言って海浜病院の先生に言いましたら、「じゃあ、あと1ヶ月か2ヶ月様子を見ましょう。でも、倒れたら必ず入れなければいけませんよ。ただ、倒れるのであればみなさんのいるところで倒れて下さい。そして、『この人は心房細動で倒れているので、海浜病院へ救急車で運んで下さい』と書かれた手帳を持って下さい。」と言われてまして、今もその手帳は持っています。ただ、人知れず倒れたらその時は諦めて下さいと言われてしまいました。

私はお医者さんとは3年も付き合っていますが、どうしてもお医者さんと仲良くなれません。何故かというと、親鸞でしたか、仏様のことを研究し始めたのですが、ところがある時はと気づいて「信者は仏を研究してはいけない、何事か！」と。それから一切の研究を止め、ただひたすらに信仰する、という形になって浄土真宗ができたそうですが、私もその口で、今時お医者さんより医学のことが詳しい患者さんもいるようですが、私は全く知りません。私は親鸞と同じで、みんなお医者さんに任せているので

すが、でも、そのことをお医者さんに言おうと思っても言えていません。度胸がないんですね。

まあそれはそれとして、話は前後しますが、ポリープの手術に挑戦するんですけれど、心臓の関係でワーファリン(常備薬)を服用しているため、出血が多いので出来ませんでした。それで、鼻からカメラを入れたり、いろいろな治療をやっていただきました。それをやってくれた方は、ミス海浜と言われる女の先生で一番綺麗なんですけど、でも私には分かりません。大きなマスクをされていて目しか見えませんから。目が優しい目をしたり三角の目をしたりしてましたけれど、まあ美人だと聞いていて、私は美人には弱いですから何を言われてもニコニコしていました。

さて、これもIT時代と関係があるのか分かりませんが、今の医療は単品医療と言うんだそうですね。昔は、山本周五郎の“赤ひげ先生”というのがありますが、“赤ひげ先生”は、風邪を診ながら風邪がどういふ病気と連動しているか、そういうこともちゃんと調べて色々な病気を見つけてくれて一緒に治してくれたそうですが、そういう“赤ひげ先生”みたいなお医者さんは今は一人もいませんね。

耳鼻咽喉科の先生は気管のポリープは診てくれる。その時、鼻からカメラを入れるので鼻をよく見ているはずなのですが、実はその鼻にぽつんと黒い点があってそれを単品医療のため見落としてしまったんですね。その点は何かかという、あとで他の医者にかかったところそれは皮膚癌だったんですね。

それで、すぐに千葉大病院の皮膚科に行き手術を早くしなければということになりましたが、ワーファリンは血液をどんどん流してしまうのでやはり手術が難しい。そこで、千葉大から海浜病院にワーファリンをちょっと止めてくれと連絡がいったのですが、海浜の先生もちょっとカッとなったのか、「ワーファリンを止めれば心臓が止まります。心臓が止まってからでも手術するんですか？」という変なけんかになってしましまして、「どういう結果になってもご本人の責任ですよ。」と言われて私も怖くなってしましまして、また千葉大に行き、「何とかワーファリンを止めないままでやって頂けませんか。」とお願いして、「では処置をしながらやりましょう。」ということで、結果として綺麗に傷もなくやって貰い、有難いことでした。

でも、何だか矛盾みたいなものを感じました。私はIT時代に乗り遅れているけれども、実はIT時代とは何だろうと思うんですね。昔は、人間と人間を結ぶのは心だったのだと思います。それがIT時代では人間と人間を繋ぐのが心からパソコンやインターネットになってきています。それでは心が通じ合わないのではないかと勝手な疑問を持っていて、そういうことを新聞に書くので、時代遅れもいいところだと言われています。

しかし、そういった時、私の文章塾の生徒のことを思い出します。生徒といってもお婆ちゃんですが、自分が子供の頃、寒い外から手指を凍らせて帰ってくると、お母さんかお婆ちゃんが「寒かったろう、寒かったろう」と声をかけながら、大きな手でちっちゃな手を包んでくれた。その暖かさを自分がお婆ちゃんになった今でも忘れられない

と言います。これを「ぬくもり」と言うんですね。

今は、孫にそのようなことをすると「フン」とそっぽを向かれてしまうような感じで、孫はさっさと暖房した部屋に入って、女の子なら人形などを抱くとそれがまた、暖房器具を兼ねているようなものもあるんですね。

そうすると、子供達はお母さんやお婆ちゃんの「ぬくもり」を感じるのではなく、ITの効果で暖かくなっている部屋にスッと入ってゲームなどをやる。それでは「ぬくもり」といった言葉がだんだん死語になる気がするんですね。

そういうことがちょっと寂しい気がします。「ぬくもり」の通じる人に今でも逢いたいと思うと新聞に書いたんですけど、読者からは「もう時代遅れですよ」と言われますが、ということは、人と人が心で繋がる時代はもう遅れているのかなあと思うんですね。で、私は遠慮しながら皮肉を言う男ですから言いたいのですが、あまり大っぴらに言うと「IT時代に乗り遅れた人の言い訳ですよ。」と言われてしまうので、中々人に話せないでいます。でも何故か、今日はこうしてお話しています。

もうひとつよろしいですか。

愛新覚羅溥儀にまつわるお家があります。溥儀の弟の愛新覚羅溥傑という人が日本に留学していて、どうやら画策があったようですが、日中友好のためということで皇族から浩という方がお嫁さんになり、浅間神社の側に新婚生活を送った家があります。

そこで最初に出来たお嬢さんが慧生というお名前です。この方は19歳の時に学習院に入っていて同級生の男の人と天城山で心中をすることになるのですが、皇族に列するお嬢さんが心中したということで、当時は極力秘密にされていました。その妹さんの婿生(こせい)さんが、母親のゆかりの稲毛のお家に年に一度位お出でになります。何故かという、婿生さんがご両親から託された宮中の木といわれる白雲木があって、白雲木を満州国に持って行ったものの寒すぎて育たず、婿生さんが稲毛に持ってきて植えて立派な白い房の花を咲かせる木となっています。

愛新覚羅溥傑・浩と縁のある仮寓をもうすこし千葉県の皆さんに教えられないものかと頼まれて、6月と10月にそういうところを回るイベントも企画されております。

是非皆さんにも見ていただけたらなあと考えております。

(文責 中沢 治久会員)



第2307回例会

日時⇒ 平成23年3月25日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『わが心のサバンナ』

卓話者⇒ 斎藤 晴朗様(元会員)

第2308回例会

日時⇒ 平成23年4月1日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『高速道路の現況について』

卓話者⇒ 千葉県警察本部 交通部
高速道路交通警察隊長
千葉県警視 飯島 浩様